

弘法大師伝授の「ユズみそ」づくり

12月19日(火)、河内長野市の盛松寺で

弘法大師が伝えたという恒例の「ユズみそ」づくりが12月19日(火)午後1時から、「^{よつ}奥通のお大師さん」で知られる高野山真言宗盛松寺(高橋^{せいしやうじ}成明^{じやうみやう}住職・河内長野市楠町西1211)で行われる。

この「ユズみそ」は、冬至の日(今年は12月22日)に食べると万病に効くといわれており、同寺で毎年作られている。寺伝によると、弘法大師が大同3年(808年)唐に留学し、帰国後勅命を受けて槇尾山に行く途中、同寺近くに立ち寄ったときに、疫病が流行して苦しむ村人のために「ユズみそ」づくりを教えたといわれている。同寺が建立された享保7年(1722年)以来、この寺の伝統行事として「ユズみそ」づくりが信徒らの手で続けられているとのこと。

当日は地元の信徒らが、直径約7~8センチのユズの上部1センチほどを切り取り、中身をくりぬき、取り出した中身から種と薄皮を取り除いて、滑らかになるまでまな板の上で包丁で丹念にたたき、この滑らかになったものとみそをよく混ぜ合わせて再びユズの皮に詰め込み、ユズみそを作る。なお、このユズみそは「^{しま}終い大師」の21日(木)に、午前9時からお供物として参拝者に配られる。

盛松寺は南海高野線千代田駅から西へ徒歩約10分。

